



創立120周年記念 文化祭

10月31日(土)



秋季県展 愛媛県高校総合文化祭

秋季県展特選

美術部 一年 福山 詩乃

秋季県展で特選をいただきました。一番時間をかけたのは、手前のトタンです。無機質の中にある色味を探すことが難しかったです。また、陰の黒が全体を引き締めています。陰の色の差や暖かみにこだわりました。この「変遷」では、廃れた雰囲気と奥の草木や車の新しさを対比してい



ます。色や物質の対比の表現が楽しかったです。今回の受賞を励みにこれからも頑張っていきます。

美術工芸部門優秀賞

美術部 二年 竹田 好花

今回、愛媛県高等学校総合文化祭美術・工芸部門で、優秀賞をいただくことができ、本当にうれしく思います。高文祭では、他校の美術部の先生方からの御批評や、生徒間で批評し合う活動を通して、新たな視点を得ることができました。この経験を次の作品に活かしたいと思っています。



作品を制作するにあたって協力してくださった方々への感謝を胸に、今後もより良いものを目指して作品制作に励んでいきたいと思っています。

PTA理事

地区名	氏名
江戸岡	井上 隆
	程野 香里
大黒町・新町・本町	池井 京子
大平	日出山 徳子
向灘	西村 雅美
栗野浦・広瀬	引地 朋子
古町・産業通	芝井 優次
松柏・松尾・郷	浮田 和人
五反田	攝津 砂代
川舞・双岩	菊池 幸恵
	松上 正雄
	菊池 香代
舌田・川上	田中 正隆
真穴	松浦 喜孝
日土	鎌田 美奈子

令和2年度 Parent・Teacher・Association 役員

役職	氏名	地区名
P T A 顧問	宇都宮 慎児	川之石
P T A 会長	福岡 勝也	矢野町
P T A 副会長	清水 克巳	宮内
"	高岡 裕司	大黒町・新町・本町
"	上田 真由美	古町・産業通
"	今泉 絵梨加	向灘
P T A 監事	六條 公治	古町・産業通
"	大福 和美	川之石
"	宮本 由美子	向灘

1年間お世話になりました。

120周年記念として、多額の寄付金をいただきました。記念品として、トラクターと楽器を購入しました。



県駅伝十四連覇

受け継がれてきた思い

陸上競技部主将 上田 琴葉

令和二年十一月一日、私たちは「笑顔で陸上競技場を後にする」という目標を達成することができました。

「インターハイの中止」この一言で多くのアスリート達が今まで体験したことのないような大きな衝撃を受けました。東京オリンピックを始めとする多くの競技大会が次々と延期や中止となり、この駅伝も、開催が危ぶまれる状況でした。コロナウイルス感染症の流行で学校が休校、練習が

できない日々が続きました。強化合宿もできず、大会に合わせた、コンディションニングも充分にできませんでした。それに加え、今年は一・二年生だけのチームという不安な状況での出場となりました。

しかし、十三年受け継がれてきた伝統を守り、継ぎ、そして十四連覇という新たな伝統を創ろうという思いを、一人一人が強く持ち、「緊張」を「集中」に変え大会に臨むことができました。当日は好天に恵まれましたが、気温が高く駅伝大会の条件としては良い環境ではありませんでした。レースは、一区でトップに

立ち、最後まで首位を譲らず「十四連覇を達成」することができました。

このような状況で、大会を開催、運営していただいた多くの方々への感謝の気持ちで一杯です。そして、私たちを支えていただいた先生や地域の方々そして保護者、毎週診ていただいたトレーナーの先生、朝夕熱心に指導していただいた監督の先生、共に「苦しい練習を楽しい雰囲気」で取り組んだチームメイトのみんなに心から感謝しています。感謝とは「自分の喜びを、周りの多くの人々の喜びに変えること」です。感謝の気持ちを「結果」に変える都大路にします。本当にありがとうございます。



編集後記

様々な活動が自粛・制限される中、今年度初の広報委員会が行われたのは十月に入ってからであった。このような状況の中、無事にPTA会報が発行できたことに安堵している。これもひとえに、原稿執筆や編集作業にご協力、ご尽力いただいた皆様のおかげである。この場をお借りしてお礼申し上げたい。

激動の年となった二〇二〇年。かつてない困難な状況の中でも、懸命に日々を過ごしてきた生徒たちの姿を、この会報に感じていただけたであろうか。怒りや不安、やりきれない思いに涙した日々。それらを乗り越えた経験。そして、改めて感じた周囲への感謝の気持ち……。

十年後、二十年後、あの時の高校生たちがこの経験を糧とし、八高の歴史と共に強く、たくましく歩んでいっていることを願ってやまない。

〔広報委員 大福 和美〕

文芸部門(散文部門) 優秀賞

小説「空を海だと仮定して」

真っ直ぐに向き合った作品

文芸・新聞部 河野 冬愛

今回、愛媛県高等学校総合文化祭において優秀賞をいただきました。このような機会を作っていただいたことに感謝すると同時に、このような賞をいただきともうれしく思っています。

僕はこの作品に対してできるだけ正直であることを心がけました。結局のところはどうだったかは分かりませんが、正直に向き合ったつもりです。また、この作品を書いているとき、ある種の浮遊感を感じることがありました。それはとても心地の良い感覚です。僕が今、向き合っているもの

はこの小説の世界しかないのだという事実が、そのような心地の良い感覚を生み出してくれたのだと思います。多分、そのような意味でも小説を書くこの作品は、とても大切なものになりました。

